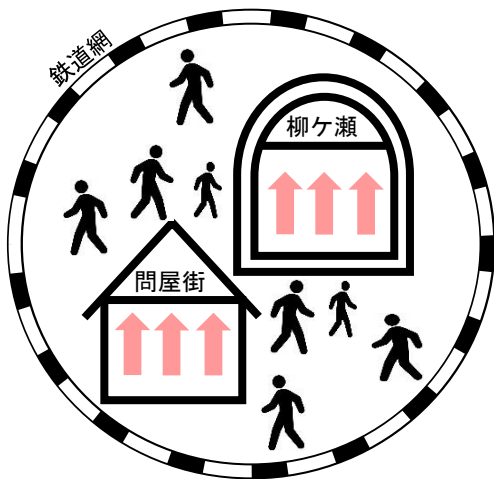




県都岐阜市を核とした岐阜圏域のまちづくり

県都岐阜市の状況

岐阜市は明治から昭和にかけて整備された鉄道や車の普及により買物客や劇場に訪れる人で賑わい、戦後は問屋街を中心に繊維産業が栄え、「商いのまち」として発展

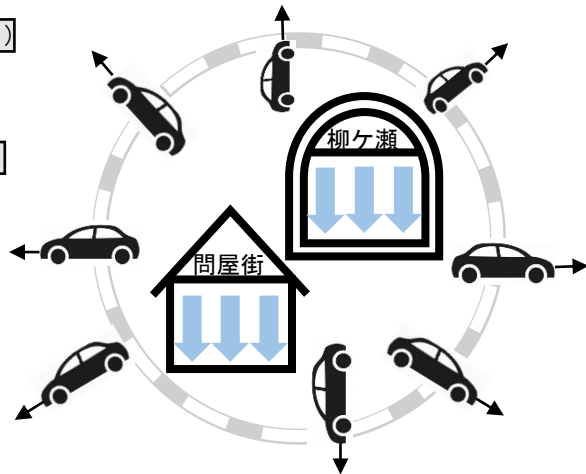
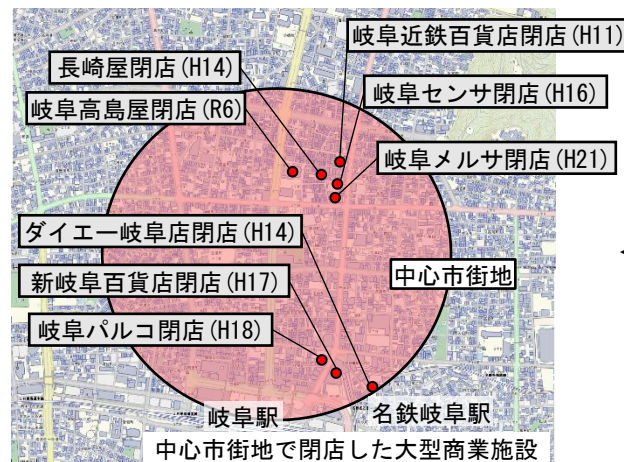


旧岐阜市内線
【提供：岐阜女子大学】



かつての柳ヶ瀬

郊外の大規模ショッピングモールに客が集中する一方で、問屋街や柳ヶ瀬の集客力は急速に失われ、令和6年7月には、県内最後の百貨店「高島屋」が閉店



岐阜高島屋の跡地



現在の柳ヶ瀬



現在の問屋街

岐阜圏域における魅力ある拠点

一方で、かつての賑いを取り戻すため、柳ヶ瀬の「金公園」や「ガラススル35」、岐阜城周辺の「岐阜城楽市」等の新たな拠点の整備を進め、「長良川鵜飼」や「金華山」などの歴史的・文化的拠点が大切に受け継がれている



岐阜羽島駅周辺



岐阜県庁周辺



サラマンカホール



岐阜駅周辺



金公園



川原町



岐阜城



岐阜城楽市



長良川鵜飼



国際会議場



岐阜メモリアルセンター



岐阜 I C、岐阜大学周辺

岐阜圏域には、魅力的な拠点が数多く存在

そうした「拠点」を有機的に「線」で結び、「面」として岐阜圏域全体に賑わいを広げる取組が必要